

# 結婚と将来への展望

## ——東大社研パネル調査 (JLPS) の分析(5) ——

首都大学東京 脇田彩

### 1 目的

本報告の目的は、現代日本社会において、結婚が将来の展望に与える影響を分析することである。結婚は生活機会を変えうるライフイベントであり、将来への展望にも影響すると思われる。とくに女性には、以下の2つの点から、男性とは異なる結婚の影響があると考えられる。第一に、多くの女性が、結婚による就業状況の変化を経験するという点である。第二に、結婚満足度の研究(永井 2011 ほか)が示唆するように、結婚の社会意識への影響には経年変化があり、その変化に男女差があるかもしれないという点である。そのため、本報告は結婚による就業状況の変化と結婚継続年数に着目しながら、結婚が将来の展望に与える影響と、その男女差を分析した。

### 2 方法

データとして、2007年から2012年までの「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 (JLPS)」若年・壮年調査データを用いる。将来への展望を分析するために、将来への希望、10年後の暮らしむき、10年後の働き方などを従属変数として用いた。

調査期間中に結婚を経験した者にとくに注目した分析と、既婚者を結婚継続年数によって4カテゴリに分けた上で未婚者と比較した分析を行った。

### 3 結果

まず、将来への希望については、女性において、結婚が本人の就業状況にかかわらず正の効果を持っていた。対照的に男性では、結婚は効果を持たず、本人年収の効果が見られた。また、10年後の暮らしむきについては、結婚自体の影響はあまり見られなかったが、結婚せずに親などと同居している男女において、低く評価されていた。10年後の働き方については、結婚前の女性において、非正規雇用で働いている場合、正規雇用で働くことへの希望が強い。しかし、女性が結婚後に非正規雇用で働いている場合、正規雇用で働くことへの希望は下がることが分かった。

### 4 結論

結婚が若年女性の将来への展望に対して、男性と比較しても、顕著な影響を持つことが明らかになった。現代日本社会においては、結婚や出産というライフイベントを経験する際に、女性は事実上ライフコースを選択することとなる。既婚女性は、その既に選択されたライフコースに対応した将来への展望や希望を形成していくことが、分析結果から示唆されている。

謝辞：本研究は、科学研究費補助金基盤研究 (S) (18103003, 22223005) の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては社会科学研究所パネル調査企画委員会の許可を受けた。